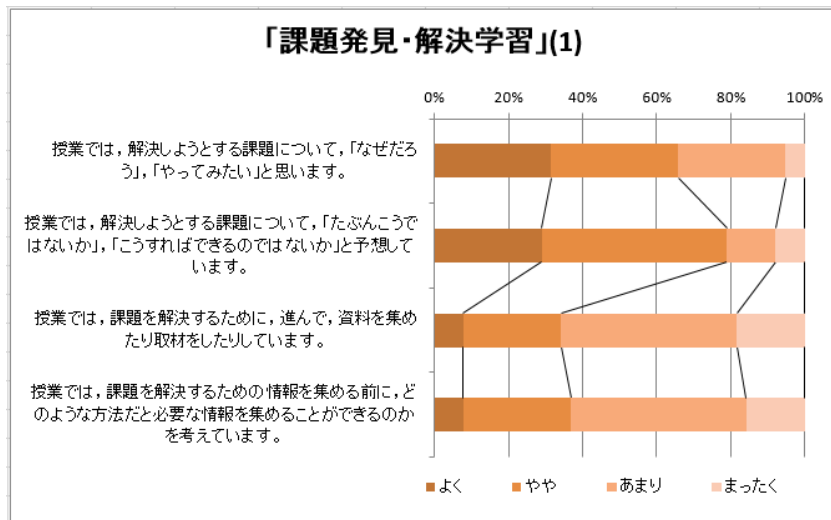


質問紙調査 (「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査)

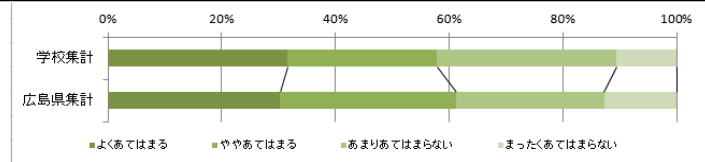
(1) 生活・学習



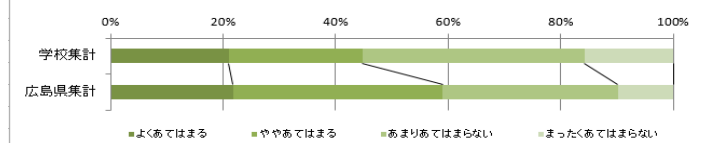
生徒の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
授業で課題解決のために進んで資料を集めている生徒は34.2%である。また、情報を集める方法をあらかじめ考えている生徒は36.8%である。いずれも昨年度より低下しており、主体的な学習者育成に向けた指導に課題がある。	いろいろな教科で課題発見・課題解決学習を展開する授業構成の改善を継続して行う。 校内授業研究を中心に、教師が主導する学習場面では、課題解決に必要な情報やその入手方法を考えさせる授業展開の共有化を図る。	2	80%	生徒アンケート	1月		

(2) 教科

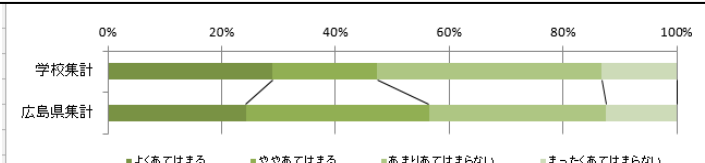
国語の授業では、分からない言葉や漢字は、辞書を使って調べています。



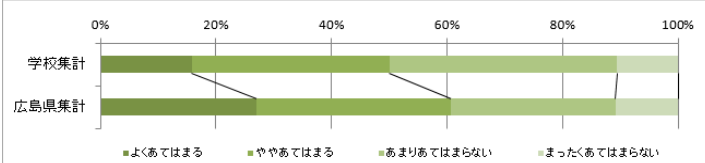
数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのかを考えています。



英語の授業では、自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています。



	生徒の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	分からない言葉や漢字があるときに、辞書を使って調べる(根拠を明確にする調べ)の肯定的回答の割合が小さい。 (肯定的回答 57.9%)	文中に出てきた言葉や漢字については、国語辞典等の辞書を使って調べさせるよう発問や学習課題を工夫する。また、文章を書かせる際に、よりよい表現になるよう辞書を引かせて推敲させる取組を継続して行う。	2	「よく」40%	生徒アンケート調査	1月		
数学	説明問題の正答率が他の設問と比べて低い。(肯定的な回答 44.7%) (タイプⅡの正答率は本校 55.3%に対し、県平均 57.4%)	角度を求める問題についてグループで話し合わせたり、証明問題を考えたりして、論理的に考え、表現させる活動を数多く仕組んでいく。	2	「肯定的回答」50%	生徒アンケート調査	1月		
理科	学習内容と日常生活とのかかわりを考えている生徒の割合が小さい。 (肯定的回答 47.4%)	学習の導入やまとめの際に、日常生活とのつながりを予想させたり、調べさせたりする学習を取り入れる。	2	「肯定的回答」60%	生徒アンケート調査	1月		
英語	英語の授業で、できるだけ英語を使おうとしている生徒の割合が小さく、英語に対して自信のない生徒が多い。 (「よく」15.8%、「肯定的な回答」50.0%)	教師が英語で話す場面を増やすとともに、学習事項以外について話す場面においても英語を活用する場面を増やす指導を継続して行う。	2	「肯定的回答」60%	生徒アンケート調査	1月		